

[ 成果情報名 ] 長崎県における斑点米カメムシ類の発生予察指標植物

[ 要約 ] 本県における斑点米カメムシ類の発生予察を行うための指標植物としては、水田周辺の雑草地等におけるメヒシバ・オヒシバおよびエノコログサが適する。

[ キーワード ] 斑点米カメムシ類、発生予察、指標植物、メヒシバ・オヒシバ、エノコログサ

[ 担当 ] 総合農林試験場・環境部・病害虫科

[ 連絡先 ] 電話0957-26-3330、電子メールm.komine@pref.nagasaki.lg.jp

[ 区分 ] 農産（生産環境）

[ 分類 ] 普及

---

[ 背景・ねらい ]

近年、斑点米カメムシ類が全国的に多発して、米の主要な格下げ要因となっており、発生予察による防除対策の確立が望まれている。しかし、現在、斑点米カメムシ類の発生予察は、イネ科雑草全般を対象とした調査データを基にしているため、ふれが大きい。そこで、斑点米カメムシ類の寄主植物を明らかにして指標植物とし、発生予察の精度向上に資する。

[ 成果の内容・特徴 ]

- 1．一般雑草地では、水田畦畔雑草地より斑点米カメムシ類の発生が多い（図1～3）。
- 2．イネ科雑草のなかではメヒシバ・オヒシバ、エノコログサおよびイヌビエにおいて斑点米カメムシ類の発生が6月下旬から9月にかけてみられ、餌としての好適期間が長い（図1～3）。
- 3．メヒシバ・オヒシバでは、すべての主要な斑点米カメムシ類の発生が多い（図1）。
- 4．エノコログサでは、クモヘリカメムシの発生が他の雑草に比べて特に多い。また、他の斑点米カメムシ類もメヒシバ・オヒシバに比べるとやや少ないが、すべての主要種の発生がみられる（図2）。
- 5．イヌビエでは、メヒシバ・オヒシバに比べるとやや少ないが、エノコログサと同程度にすべての主要な斑点米カメムシ類の発生がみられる（図3）。
- 6．発生の地域間差が少ない雑草は、カモジグサ、エノコログサ、メヒシバ・オヒシバおよびスズメノヒエであるが、ネズミムギやイヌビエは発生を認めない地域がある（データ省略）。
- 7．本県における斑点米カメムシ類の発生予察を行うための指標植物としては、主要なカメムシ類の発生が多く、雑草発生の地域間差が少なく、また、餌としての好適期間が長いメヒシバ・オヒシバおよびエノコログサが適する。

[ 成果の活用面・留意点 ]

- 1．調査対象植物の種類を特定することで、発生予察の精度を向上できる。
- 2．雑草地における生息密度と本田水稲における加害ならびに被害程度との関係を明らかにする必要がある。

[ 具体的データ ]

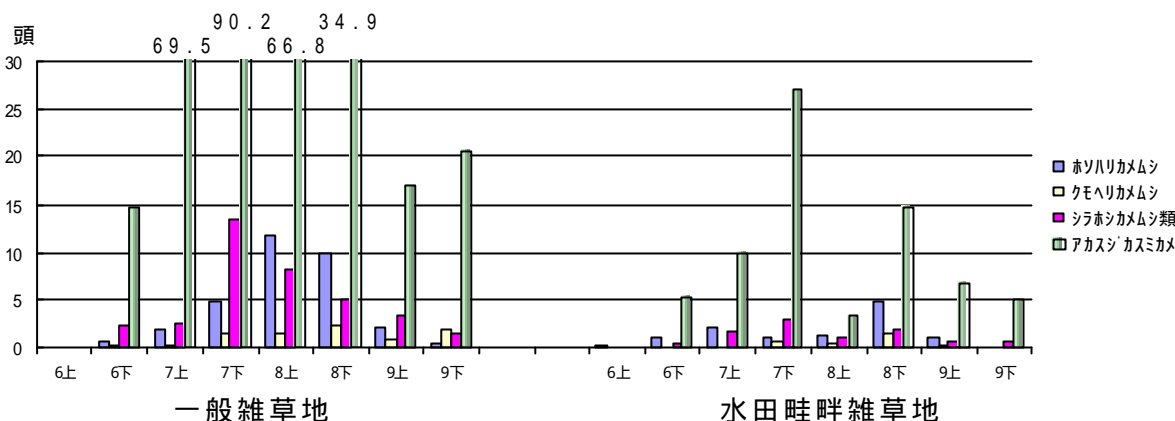


図1 メヒシバ・オヒシバにおける主要な斑点米カメムシ類の発生状況

注) 捕虫網による10回振りすくい取り当たり捕獲成幼虫数、以下同じ

注) 調査場所: 西彼町、諫早市、森山町、国見町、波佐見町、佐世保市、松浦市、平戸市、以下同じ

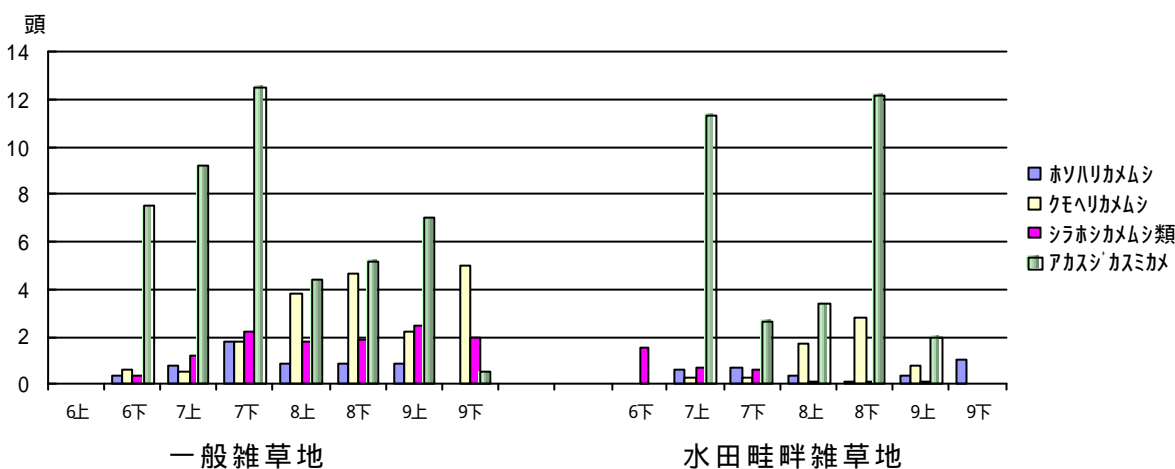


図2 エノコログサにおける主要な斑点米カメムシ類の発生状況

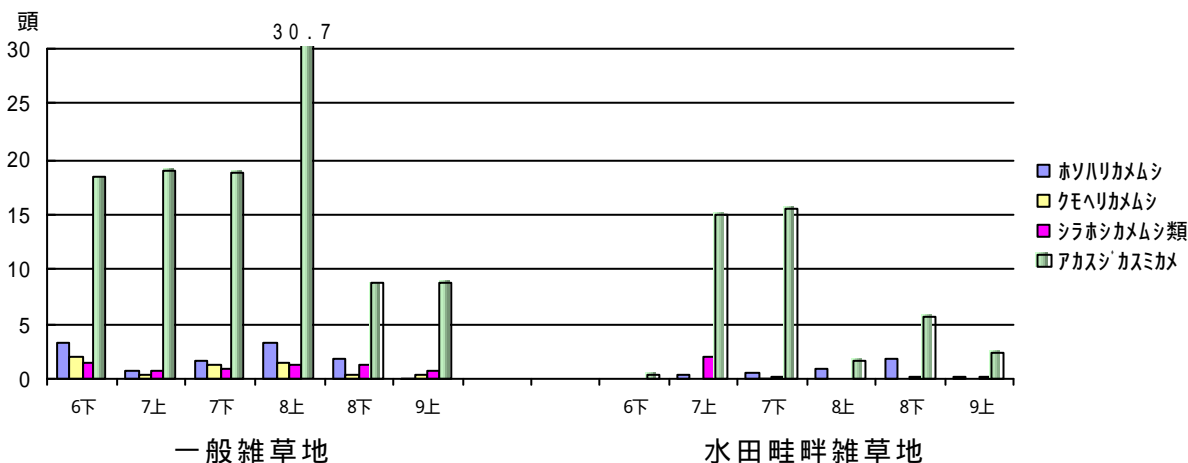


図3 イヌビエにおける主要な斑点米カメムシ類の発生状況

[ その他 ]

研究課題名: 水稻斑点米カメムシ類の発生予察法の改善

予算区分: 国庫 (植物防疫)

研究期間: 2001~2004年度

研究担当者: 福吉賢三

発表論文等: 福吉 (2003) 九州病害虫研究会報49: (投稿中)